

「逃げろ」エベレストに絶叫

【カトマンズ共同】「ゴウ音とともに山の上方から迫る大量の氷と雪。シェルパは恐怖の叫び声を上げ、登山家らが一齐に逃げだした」。25日のネパールの大地震によって引き起こされ、50代の日本人の男女2人が死傷した世界最高峰エベレストの雪崩。一瞬にしてベースキャンプの一部と各国の登山家らをのみ込み、エベレスト史上最悪の惨事となった。(1面関連)



25日、ネパール中部で起きた大地震直後、エベレストのベースキャンプを襲った雪崩(AFP時事)

氷壁 登山家のむ

「氷の壁が襲ってきた」。AP通信によると、マレーシアの登山チームのアジム・アフィフさんは揺れを感じてテントから出て、雪崩を目撃した。「逃げろ」という大声。必死に逃げ場を探した。

26日午後には、ベースキャンプから救助された日本人や中国人、韓国人、シェルパを含む計15人が救援機で首都カトマンズに到着、病院に搬送された。



地震で発生した雪崩に巻き込まれたエベレストのベースキャンプ(25日)。(アジム・アフィフ氏撮影、AFP共同)

ルーマニア人のアレックス・ギヤバンさんはツイッターで25日夜、緊迫したキャンプから、登山家らが協力して負傷者の救助や行方不明者の捜索に当たっていると報告。「多くが亡くなり、さらに多くが負傷した。早く救助が来なければもっと多数が死ぬ」と訴えた。

ネパールの登山関係者によると、雪崩は複数発生。当時キャンプには外国人4

00人を含む約千人がいたが、多くのテントが雪に埋まり、登山具が散乱。遺体が次々と収容された。天候が悪く通信手段が脆弱なため、ヘリによる救助活動が思うように進まないという。

26日には余震による雪崩が発生。現場に残された登山家らが恐怖におびえているとロイター通信は伝えた。

ロイターなどによると、標高約5300級のベースキャンプより高い位置にある「キャンプ1」と「キャンプ2」から下山するルー



エベレストのベースキャンプから避難し、車いすに乗る旅行者=26日、カトマンズ(AFP共同)

トが破壊されたため、計約100人が取り残された。米CNNテレビ(電子版)は、犠牲になった登山家に複数の米国人が含まれると報道。「この悲しみは言葉にできない」との遺族の声を伝えた。

被災地支援へ 職員2人派遣

A M D A

ネパール中部で起きた大地震を受け、国際医療ボランティアA M D A (本部・岡山市北区伊福町)は26日、



現地で緊急支援を行うため、マレーシアに設けている事務所の所長大政朋子さん(42)、看護師の柴田幸江さん(37)＝岡山市＝を派遣した。

A M D A ネパール支部から本部に入った連絡によると、首都カトマンズでは多くの家屋が倒壊。多数の住

民が屋外で夜を明かしている。道路の地割れなどで交通が乱れ、支部の医師も十分な活動ができていないという。

2人は26日午後、JR岡山駅から関西空港へ出発。

大政さんは「情報を収集した上で、具体的な支援を進めたい」、柴田さんは「感染症対策が必要になるだろう」と話した。マレーシアのクアラルンプール経由で、カトマンズに27日昼ごろ(現地時間)入る見込み。

(平田桂三)



ネパールでの緊急支援のためJR岡山駅を発する大政さん(左)と柴田さん